

## 特集／アジア地域関連コレクション—わが国主要図書館の所蔵資料から

### みんぱく図書室・アジア関係コレクション—国立民族学博物館、所蔵資料の共同利用を推進

稲葉洋子

大阪の万博公園内に一九七四年に創設された大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館（以下「民博」）は、約六〇名の教員を擁する研究施設である。それと共に、総合研究大学院大学地域文化学専攻及び比較文化学専攻の大学院生約四〇数名が研究する施設でもある。さらに、二〇〇七年一月に開館三〇周年を迎える博物館という研究成果を公開する展示施設及び二六万点に上る標本資料を保管する収蔵庫を備え持つ日本における文化人類学・民族学研究の拠点施設でもある。

この民博の中で研究を支援するため、当図書室は約六〇万冊の文献図書資料やマイクロ資料を所蔵し、国立大学法人の図書館と同様、館内・館外研究者だけでなく、一般の方々にも閲覧や文献複写サービスを提供している。また、所蔵データ（OPAC）をインターネットで提供するとともに、二〇〇四年度より国立情報学研究所のNACSIS-CATに所蔵データの適及入力を開始し、共同利用を推進している。

図書室では、一九七四年に開室して以来、文化人類学・民族学及び隣接諸分野の蔵書

の充実を図っており、この分野の蔵書数では世界的な規模を誇っている。その内容は、民博に所属する歴代研究者の興味・関心の広がりや反映して実に幅広く多様であり、言語数は九五言語におよぶ。特にアジアに関するコレクションには見るべきものが多くある。まずは、個人文庫から紹介したい（なお、文庫名の後ろに\*がついているものは、OPACの項目別検索で「文庫・コレクション」名を選択すると一覧表示が可能である）。

#### ●個人文庫

##### ①梅棹文庫\*

民族学・比較文明学の学者で民博初代館長梅棹忠夫博士（一九二〇年〜）の文庫である。現在も現役の研究者であるため、資料は継続受入中で、三万冊を超えている。将来的にはアーカイブ資料も受け入れる計画である。

##### ②エバンヘリスタ文庫\*

一九九〇年収蔵。約六五〇冊。元フィリピン国立博物館副館長アルフレド・E・エバンヘリスタ（Alfredo E. Evangelista）教授の

旧蔵書。同教授は、フィリピン研究の開拓者としてフィリピンの民族学・考古学を指導した人類学者で、蔵書は一九五〇〜一九七〇年代のフィリピン関係資料が中心。

##### ③大林文庫\*

二〇〇二〜二〇〇五年収蔵。約六八〇〇冊。元東京大学名誉教授、故大林太良氏（一九二九〜二〇〇一年）の旧蔵書。一九二〇世紀のアジア・オセアニア地域を中心とした民族学・文化人類学に関する主要な学説と、その基礎となった資料が中心。

##### ④オットー・カールウコレクション (The Otto Karow Collection)

東南アジア及び東アジア研究者、フランクフルト大学教授オットー・カールウ氏の旧蔵書。同コレクションのうち、タイ及びカンボジア関係図書を一九八八年収蔵、約七〇〇冊。続いて一九九〇年にビルマ及びベトナム関係図書を収蔵、約一八〇〇冊。なお、日本研究のコレクションについては米国議会図書館が収蔵している。

##### ⑤加藤文庫

一九九五年度収蔵。約六八〇冊。北・中央アジア民族史が専門、国立民族学博物館名



民族学史資料室内



図書室カウンター



民族学史資料室の所蔵資料



図書室書庫内

誉教授の加藤九祚氏（一九二二年～）旧蔵書。主としてロシア語資料が中心。

⑥佐口文庫\*

一九九四～二〇〇〇年収蔵。約七五〇冊。東洋史学者（主に中央アジア史専門）、元金沢大学名誉教授であった故佐口透氏（一九一六～二〇〇六年）の旧蔵書。東洋史・民族学関係のロシア語資料が中心。

⑦篠田文庫\*

一九七九年収蔵。約八〇〇〇冊。元日本風俗史学会理事、東アジア食物史の開拓者であった故篠田統氏の旧蔵書。同氏は我が国生化学の草分けの一人であり、植物・動物の生理生態学・衛生昆虫学・医動物学に業績を持つ理系の研究者であったが、戦後は人文科学の分野に転じ、科学史・家政学・民俗学の業績も多い八宗兼学の学者であった。この文庫の特徴は、広大な知識の集成であり、NDCの分類網目で欠けているのは財政と版面のみである。和洋図書、和本、漢籍から構成されており、その中には珍しい文献も多く、特に慶長古活字版『萬病回春』は書誌学的にも貴重な資料である。なお、図書以外の資料については、別途、アーカイブ資料として冊子体目録及び静止画像のデジタル化に着手している。

⑧田中文庫\*

一九七七年収蔵。約一六〇〇冊。元大阪府立大学名誉教授でかんきつ類研究の大家、故田中長三郎氏（二八八五～一九七六年）の植物・農学関係の旧蔵書。台北帝国大学

附属図書館初代館長時代に私費を投じて購入したドイツ人植物学者オットー・ペンツィヒ (Otto Penzig) の旧蔵書の一部が含まれる。この文庫には、文献図書資料の他に、『世界食用植物事典』（英文書名 *Tanaka's Cyclopaedia of Edible Plants of the World* 一九七六年刊）編纂のため、同氏が世界各国の植物関係の書物から集めた有用植物データファイル、「田中ファイル」が含まれる。なお、ペンツィヒの旧蔵書のはほとんどは、現在、台湾大学に残され「田中文庫」として公開されている。

⑨中西コレクション\*

一九九四年寄贈受入。図書一二五六点、新聞一一七一紙。京都の中西印刷(株)前取締役社長、故中西亮氏（一九二八～一九九四年）が収集した文字資料コレクションで、世界の様々な文字で書かれた図書・新聞・手稿・標本等がある。

「中西コレクションデータベース―世界の文字資料」として書誌及び画像を公開している (URL: <http://nakanishi.ninpuaku.ac.jp/n-de.jsp?HEADER=false>)。

⑩ハイネゲルデン文庫\*

一九七五年収蔵。約二〇〇冊。元ウィーン大学教授、民族学者の故ロベルト・ハイネゲルデン (Robert von Heine-Geldern) 氏の旧蔵書。民族学・文化人類学・先史学の資料が中心で、世界中の学者から贈呈された著作及び抜き刷り等の多いことが特徴である。

#### ⑪牧野文庫\*

一九七七～一九七八年収蔵。約一万六〇〇冊。元東京大学名誉教授、社会学者の故牧野巽氏（一九〇五～一九七四年）旧蔵書。社会学・歴史学・民族学の資料が中心。父祖四代門外不出として秘蔵されてきた稀少価値の高い漢籍約一万冊を含む。

#### ⑫馬淵文庫\*

一九九〇年収蔵。約三三〇〇冊。元東京都立大学名誉教授、社会人類学者の故馬淵東一氏（一九〇一～一九八八年）の旧蔵書。民族学・社会人類学関係の資料が中心。別途、アーカイブ資料も所蔵。

#### ⑬モースコレクション

一九九〇年収蔵。アメリカのピーボディ・エセックス博物館収蔵「E. S. Morse Papers」のマイクロフィルム。大森貝塚の発見者として有名なエドワード・シルベスター・モースの書簡・日記・草稿などの研究一次資料群。

#### ⑭守屋文庫\*

一九九二年収蔵。約一七〇〇冊。元国立民族学博物館教授、日本文化史学者の故守屋毅氏（一九四三～一九九一年）旧蔵書。芸能史・文学・歴史学関係の資料が中心。別途、アーカイブ資料も所蔵。

### ●テーマ別コレクション

#### ①アラビアンナイトコレクション\*

約二二〇〇冊。アラビアンナイト及びその関連資料で、民博が二〇〇四年に開催し

た特別展「アラビアンナイト大博覧会」のために収集した資料が基礎となっている。一七世紀から現代に至る世界各国で刊行されたアラビアンナイトが分かる。

#### ②経典資料

チベット・ビルマ関係資料を約五二〇〇冊所蔵しているが、そのほとんどがペチャ形態の経典である。二〇〇五年よりNACSIS-CATに遡及入力中。デルゲ版チベット大蔵経（一九八二年収蔵、約二二〇冊）を含む。

#### ③中国方志叢書

六三五〇冊収蔵。華南地方一～二八五號、華中地方一～九六四號、華北地方一～五六四號、塞北地方一～四二號、西部地方一～三八號、東北地区一～四一號、台湾地区一～三四五號、計六三五〇冊。二〇〇四～二〇〇五年、NACSIS-CATに遡及入力完了。

#### ④南北朝鮮地理風俗誌叢書

一九九五年収蔵。二二九冊。

#### ⑤百部叢書集成

一九七九年収蔵。七九四〇冊。中国の宋から清末までの一〇〇種の叢書を影印したもの。

#### ⑥マイクロフォーム資料

主な資料として『天理図書館所蔵満語文献集語学編』、『満洲日日新聞』、『満洲日報』、『今西博士蒐集朝鮮史コレクション』、『朝鮮日報』、『台湾民報』、『臺灣日日新報』、『China Local Gazetteers' Palatit Tibet-

an' Von Siebold Collection』『都新聞』等を所蔵している。

また、民博は、アイヌ研究の拠点施設として資料を揃えているが、その中には、二〇〇四年度に収蔵した「クナシリ・メナシ蜂起事件」（一七八九年）にからむ画像とみられる『夷酋列像』（二巻物、松平定信筆の詞書添付）もあり、現在、様々な観点から研究が行われている。

### ●地図コレクション

当図書室では世界各地のシート地図を所蔵しているが、現在、閲覧環境が整っていないため、利用者には不便をかけている。二〇〇七年度には地図資料室の整備を予定している。

#### ①アフリカ古地図コレクション

一九九〇年収蔵。約三〇〇点。英国王立地理学会会員D・M・カウフマン氏が収集した一五二三～一九〇〇年にかけての主としてヨーロッパで製作されたアフリカ各地の地図コレクション。

#### ②ロシア軍参謀本部作成軍用地勢図

二〇〇五年度収蔵。二二三枚。モンゴル、日本、朝鮮民主主義人民共和国（いずれも一〇万分の二）及び大韓民国（五万分の一）のシート地図。

### ●民族学研究アーカイブズ

文献図書資料や地図資料以外に、民博には、研究者や研究グループのフィールドノ



## 特集／アジア地域関連コレクション—わが国主要図書館の所蔵資料から

ートや原稿、あるいはファイルドで生成した映像・録音記録など様々な研究資料を蓄積してきた。創設三〇年を迎えた二〇〇四年、文化人類学・民族学研究拠点である民博が備えるべき機能の一つとして、アーカイブズ管理体制整備の必要性が検討され、これらの資料・情報を公開し、共同利用に供してその価値を再確認しよう」と、「民族学研究アーカイブズ」構築を開始した。

二〇〇五年には、アーカイブズの理念やガイドラインを検討し、資料保管場所を整備すると共に、資料整理にも着手した。

また、アーカイブズ資料には、紙媒体資料だけでなく、標本資料や映像・音響資料も含まれるため、標本や映像・音響それぞれの部門の研究者や事務担当者が参加・協力して分担保存・公開体制の検討を継続している。

現在、資料のリスト作成やデジタル化に着手したばかりで、公開方法を検討中であるが、ここではアジアを研究対象としているアーカイブズをご紹介します。

### ・個人アーカイブ

①鹿野忠雄アーカイブ（一九〇六年生、一九四五年行方不明）

昆虫や動植物の標本採集の過程で、台湾の民族学的調査を手がけるようになるが、戦火激しいフィリピン・ボルネオ北部に民族調査に赴き、消息を絶った。

標本資料、スケッチ、地図、写真、原稿等の資料があり、リスト作成に着手。

②菊沢季生アーカイブ（一九〇〇年生、一九八五年没）

日本ローマ字学会会長を務め、戦後のエスペラント復興にも力をつくした音韻学者。主として日記、研究ノート、原稿資料で、リスト作成に着手。

③篠田統アーカイブ（一八九九年生、一九七八年没）

個人文庫でも紹介しているが、現在、写真資料及びリストのデジタル化に着手。

④土方久功アーカイブ（一九〇〇年生、一九七七年没）

彫刻家。一九二九～一九四四年にパラオ諸島、ヤップ諸島サテワヌ島及びボルネオ島等に滞在し、言語学的研究から遺跡・遺物調査、民族研究、民具品収集を行う。亡くなる直前まで継続して書かれた「土方日記」が特に有名で、テレビ番組等にも特集として取り上げられている。この日記のデジタル化を進め、公開方法を検討中である。

⑤馬淵東一アーカイブ（一九〇九年生、一九八八年没）

台湾原住民研究で有名。主としてフィールドノート、抜き刷り、原稿等の紙媒体資料及び静止画像資料が中心である。リスト作成を実施。

### ・研究団体アーカイブ

①日本文化の地域類型研究会（日本文化の地域性プロジェクト）アーカイブ

東京大学文化人類学研究室に他大学研究者が参加して、一九六二年に行われたアン

ケート調査及び学会発表の記録資料で、リスト作成に着手。

三五ページ左上の写真は、紙媒体のアーカイブ資料を保管している民族学史料室内部及び土方アーカイブの保管状況である。

当図書室では、貴重資料及び民族学研究アーカイブズ資料を除く文献図書資料については、身分を証明するものを持って来ていただければどなたでも閲覧利用が可能である。詳細はURLでご確認いただきたい (<http://www.minpaku.ac.jp/library/>)。

また、二〇〇六年一月には、第一回みんなく図書室所蔵貴重図書展示会「一七・一八世紀の博物誌」を開催した。これからは毎年テーマを設けて一般公開していく予定である。

なお、民博では二〇〇六年四月より、従来バラバラに受け付けていた所蔵資料に関する問い合わせについて、「民族学資料共同利用窓口」を設け、標本資料、文献図書資料、アーカイブズ資料、映像・音響資料への館外からの問い合わせに対応している。共同利用窓口のURLは次のとおりである。  
<http://www.minpaku.ac.jp/kyodonado.html>

いなば ようこ／国立民族学博物館情報管理施設情報サービス課長